

ある保育者養成教員のつぶやき

～ 現場から見る 令和時代の学生たちの日常 ～

1

2023年12月

合格
させたい!



四大(ヨンダイ)と短大(タンダイ)

保育者養成校の大半は短期大学でその後に、専門学校、四年制大学と続きます。しかし、近年は少子化や四年制大学への進学率の上昇からあまり比率が変わらなくなってきています。保育士資格の取得には各学校により独自のカリキュラムはあっても基本的に資格取得のための必修科目や実習時間・日数なども条件がありますから、ほぼ同じです。では何が違うのか...大きく異なるのは実習の時期と就職活動の開始月でしょう。

今年、複数の保育園の先生から「短大生は忙しいのもわかりますが就活はのんびりとされていますね」と声をかけられました。ここ数年で保育業界の就活の時期が劇的に早まっています。特に今年は、8月で(も)出遅れている、とご助言いただきました。園によっては年度末の退職者がわかるのが9月頃だしそのくらいから...と聞いていたのですが、それでは遅いと言われる。学生たちと接していても、実際に7月に内定をいただく学生が増えてきました。なぜに...??



8月 実習と就活が重なる学生も...

そこには園の社会全体での慢性的な保育士不足もあり、早期に内定を出したいという事情もあるでしょうが、それ以上に、4年制の大学生がインターンだけでなく実習も3年生までに終えて、長期的な計画を持ち、保育園で複数アルバイトをするなどして4年生の春には就活を始めていることがあります。就活や内定の早期化は四年生大学の学生の増加が要因でしょう。

他方で、短大生も決してのんびりしているわけではないのですが、座学と実習のカリキュラムが密で日頃の学生生活に余裕がないこともあり、アルバイトは夕方や土日が主となります。そして、2年間に幼保の両資格を取るならば、10日間×5回の実習を受けなければなりません。慌ただしい学生生活のなかで、保育現場に向かうのは実習の機会のみという学生も少なくありません。そして主体的に保育士になるための行動を取り始めるのが実習後となると必然的にスタートが遅れます。

...うかうかはしていないのですが、短大としても取組みが必要でしょう。養成校の教員として、短大生にも自分の力で考えて卒業までの2年間で主体的に保育の道に進んでいけるよう働きかけていかねば!とまた一つ仕事が増える今日この頃です...

保育者養成大学・幼児教育学科講師の先生にご協力を頂き養成校の実情をお伝えしています!

執筆者プロフィール

公立保育士として児童発達支援センターに勤務。

専門: 特別支援教育と保育者のキャリア養成(合理的配慮の必要な学生を中心に)。

現在は特別支援教育に加えて、保育実習を担当し、保育園との連携や学生への進路支援も行う。



株式会社 幼保経営サービス

文責 コンサルティング部 柴田洋平(弁護士・保育士) 東京弁護士会所属

TEL 03-6915-1910 Email yohokeiei_consulting@child.co.jp

HP <https://www.ans.co.jp/youho/consult.html>

